

新春随想

豊かな「知恵の果实」を育むために

「知恵産業が促す京都創生」



会頭 立石 義雄
オムロン株式会社
名誉会長

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

訪日外国人観光客の増加を背景に、観光関連産業が国内景気を押し上げています。京都も例外ではなく、本格的なインバウンド時代を見据えながら「世界交流首都・京都」の実現に向けた受け入れ環境の整備や交流インフラの構築が急がれます。交流人口や観光消費の増加を新たな雇用の創造や地域経済の成長に結びつけるとともに、広域的な連携や観光産業以外とのビジネスマッチング等によって、交流効果がまち全体へと波及する「交流と連携の好循環」を生み出してまいりたいと思います。

全国の地方創生が始動する中で、京都の知恵を活かした「京都創生」の中心を担うのは、知恵ビジネスをはじめ、地域で消費

や雇用を生み出す内需型の中小企業です。

未来に向けた成長の基盤づくりを加速させるためにも、京都が誇る「ものづくり」「観光」「文化」といった強みを活かしながら、健康・医療・介護、農林水産業、ロボット、新エネルギーなど分野を越えた連携によって、クリエイティブな商品やサービスが生み出されるような環境を整えることが必要です。「京都創生」の鍵は、多様な人々による知恵を活かした取り組みにあり、本所が推進する知恵産業には大きな可能性があると思っています。

本年は、平成25年に策定した3カ年計画「ニュー京商ビジョン・サードステージ」の仕上げる年です。オール京都による知恵産業の育成・支援によって、「知恵」に関わる認証制度の取得企業が約1400社に及ぶ

など、次代の京都産業を担う知恵ビジネスは着実に広がりを見せております。昨年にはオール京都による「京都知恵産業フェア」を東京で開催するなど、知恵ビジネスの市場を国内外に拡大させていくための基盤が整いつつあります。知恵ビジネスが次々と自律的に生まれ育つ「知恵の連鎖」を促すとともに、小さくとも知恵を発揮する中小企業が生まれ育ち、新しい社会ニーズや価値観に対応した多様な産業群が集積する「知恵産業の森」の実現に向けて、取り組んでまいりたいと思います。

干支の十二支は、農作物の成長過程を表すと言われています。今年の「申」という字は「草木が十分に伸びきり、果实が成熟していく状態」を表すそうです。大地にしっかりと根付いた知恵ビジネスの木々に、今年は豊かな「知恵の果实」が実る。そんな成長の姿が描けるように、「知恵産業のまち・京都」を推進していきたいと思っています。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所活動への一層の参画をお願い申し上げます、新年のあいさついたします。

新春随想



副会頭
株式会社京都銀行
取締役相談役
柏原 康夫

「受け身志向」を脱し、自ら「課題解決の主体」に

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。
第二次安倍内閣発足から三年余、経済最優先のもと、アベノミクスは道半ばの「三本の矢」に代わる「新三本の矢」の発表も、その高過ぎる数値目標もあって評判は今一つの様です。

しかしながら、ハードルは極めて高いといえ、「夢をつむぐ子育て」や「安心につながる社会保障」など、今現在の国民不安の根本原因、すなわち長期的な少子化と社会保障の問題に真正面から取り組む姿勢には、大きな意味があると思います。それらの具体策をいかに練り上げ、立ち足かかる困難に果敢に挑戦する「突破力」こそが求められましよう。

そして今一つの大きな課題「地方創生」に向けても、その主役を担うべき中小企業が、これまでの受け身志向を脱し、自ら進んで課題解決や創造の主体となり、地域主導にしっかりとエンジンを作り替え、民間の活力を集めていくことが大切です。

それは、本所の最大のテーマである「創意と工夫による付加価値向上で時代に革新を起こす」という目標そのものでもあり、揺るぎない決意と実行力で、この一年をさらに前進する年としたものであります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



副会頭
株式会社島津製作所
相談役
服部 重彦

あけましておめでとうございます

世界で影響力のある旅行雑誌「トラベルアンド レジャー」誌のワールドベストシティランキングで京都は2年連続で1位となりました。観光都市として京都の地位はゆるぎないものになっています。最近では四条通りの歩道拡幅、駐車規制などにより人にやさしい街づくりが進んでおり、又交通渋滞の解決にも大きな成果がはじめています。さらには「屋外広告物の制度」の徹底で古都の味わいが一層深くなりました。しかし、一流の観光地としてはまだまだ解決せねばならない課題も多いと思います。

京都を訪れる観光者が求めるものは、わかりやすい交通表示システムと渋滞の無いシンブルな交通網、夜遅くまで楽しめる安心安全の町、十分に快適な宿泊施設などで、今後京都が取り組むべき課題でしょう。都市格向上のためにも観光客からの評価は重要です。

今年も官民一体になり、さらに魅力ある京都に高めて参りましよう。



副会頭
株式会社ワコールホールディングス
代表取締役社長
塚本 能交

京都ブランドの醸成

新しい年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

国内経済の見通しは、景気の持ち直しペースは緩やかにとどまり、今年もその傾向は続くと思われていますが、引き続き景気の先行きは、不透明な状況です。

こうした予測や景気に左右されることなく、常に良質を追い求め続ける京都の持つブランド力や付加価値を高めていくことが大切であり、それを行うのは京都にいる私たち自身であると考えます。

政府は、2016年度には、国外からの観光客数が一気に2千万人を上回ると見込んでおります。しかしながら、国内では今後、人口の減少や高齢化が進み、観光需要の低迷や地域活力の低下が予測されています。このような状況下、インバウンド需要の拡大は、観光収入の増加をはじめ、雇用機会の創出など地域の活性化に大きく寄与することが期待されます。

京都においても、本所は、伝統産業から新しい産業まで様々な業種の1万2千を超える会員に支えられ成り立っています。この京商1万2千の「知恵と力」を結集することで、京都でしか作ることのできない素晴らしいものがたくさん生まれ、京都経済界全体が活性化されていくようにしていきたいと思っています。本年が会員の皆さまにとりまして良い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



副会頭
株式会社フクナガ
代表取締役会長
福永 晃三

観光産業のイノベーション

新年あけましておめでとうございます。

いま、地方創生を牽引するほどに観光が大きく注目を集めています。インバウンドは過去最高を更新し、2千万人に届く勢いです。観光関連産業は、すそ野が広く小売商業に及ぶことから、京都は他より一段階早く恩恵を受けている土地柄だと思います。急激な訪日客増加と東京オリンピックに備えて、政府は観光政策で「民宿」の許可制を検討するなど、引き続き広域観光推進を進めています。

昨年9月、パリで「観光産業におけるイノベーション」をテーマにフォーラムが開催されました。京都は独自性や国際性に優れているものの、観光業界の産業化意識が遅れています。サービス系にベンチャー誕生をという立石会頭の提唱を推進する2016年、パリでのフォーラムを第一歩に、観光サービス産業に注視し、経済推進につながるフォーラムの開催に期待したいと思っています。

本年も皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



副会頭
株式会社堀場製作所
代表取締役会長兼社長
堀場 厚

グローバル社会の中で「京都ブランド」の確立を

謹んで新春のごあいさつを申し上げます。
今、世界経済は減速傾向にあり、また仏テロ事件も記憶に新しい中で外交・軍事情勢も不安定に揺れています。このような中で日本の役割として経済回復を確実にするため、地域・企業レベルでやるべきことを本気で考え、積極的に取り組んでいくことが重要です。

京都はインバウンド観光の増加で賑わっていますが、このパワーが中長期的に定着するよう、観光のみならず、他の各業界を含め、あらゆる分野での「京都ブランド」の確立が急務です。「京都ブランド」で世界と繋がるためのITインフラは劇的に進化していますが、溢れる情報の中で、正しく価値のある情報とは何かを見極めるためには、やはり人と人との交流の中で得られる生きた情報を組み合わせ、個別に情報との向き合い方を考えなければなりません。

京都企業が得意としてきた「ほんまもん」を追及し、グローバルに通用する多角的な視点で考え、攻めの姿勢で「京都ブランド」を確立するために、京都商工会議所一丸となつて、チャレンジして行きましよう。会員の皆様の一層のご理解、ご協力をよりよくお願いいたします。

本年が皆様にとりまして、実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



副会頭
京セラ株式会社
代表取締役会長
久芳 徹夫

常に挑戦する姿勢を貫く

謹んで新年をお慶び申し上げます。

今期は企業の業績が全体的に大きく伸びていると報じられています。しかし、私はこの状況に満足してはならないと感じています。なぜなら、輸出関連の企業では円安が業績に大きな影響を与えているからです。また、京都では観光関連も好調ですが、それは海外からの観光客の伸びとその購買力にあるからです。景況には、必ず波があります。社員を守り、会社を永続的に発展させていくためにも、次なる手を打ち続けなければなりません。例えば、円高に備え、その中でも採算が出せるよう、今から改善に取り組む。訪日客をさらに増やそうと、海外に向けて新たな情報発信をはじめめる。常に現状を見直し、あるべき姿に変えていく「改革」と、常に新たな「挑戦」が大切なのではないのでしょうか。

安心し、満足した時から、業績は下降をたどり始めると私は考えています。現状に満足することなく、常に新たな「挑戦」を貫く姿勢こそが、企業にとって大事なことでであると考えています。

本年も微力ながら、副会頭として尽力してまいります。ご支援をよりよくお願い申し上げます。